

【しがみつかれた時に～その②～】

前回の宿題を再掲します。

『C職員さんの出勤にD利用者さんは、心乱れてしまいます。他の職員には決して見せない行動を呈します。髪を引っ張り、つねり、果ては噛みついてしまいます。しかし、D利用者さんはC職員さんのことを決して嫌いのようには見えません。さて、スケジュールを使った支援方法はいかに？D利用者さんの好きな活動（ストレングス）は、「一緒に電車の本を見る」です。行動理解の方法と併せて考えてみて下さい。』

－解答編－

まずは、D利用者さんの心情を想像してみましよう。

D利用者さんは、C職員さんにポジティブな想いを寄せているようです。おそらく出勤を今か今かと待ちわびていたのでしょう。その時に呈する行動だけを見ると、髪の毛を引っ張ったり、つねったりですから、世間常識的には、ネガティブなアプローチのように感じられるのですが、示している行動と心の中は正反対だということになります。

上手におつきあいをしたいと考えるD利用者さんですが、どうしたらいいかわかりません。どうしよう、どうしようと思っている内に、今まで培ってきた対人関係の取り方が出現してしまいます。もちろん髪の毛を引っ張ったり、つねったりされて、ニコニコしている人はいませんから、C職員さんの困った、そしてイヤな表情、離れようとする行動を見て、D利用者さんの行動はますますエスカレートしてしまいます。D利用者さんの心の中は「また、やってしまった、嫌われてしまった」という後悔と罪悪感、自分はダメな奴だという自己否定感でいっぱいになってしまいます。つまり、心が傷ついていくわけです。

しかし、この状況で大切な視点は、上手におつきあいをしたいのに上手につきあえないという状況は、D利用者さんだけでなくC職員においても同じだということです。お互いに否定的な、不快な時間を過ごしているということです。

では、「意を感じて先回りする」のにはどうしたら良いのでしょうか？

彼のストレングスは「電車が好き」にあります。「一緒に電車の本を見る」ことは、D利用者さんにとってC職員さんにとっても、お互いに「快」の時間を生み出してくれる手段です。そこで、ストレングスを活かした構造化支援を考えます。

D利用者さんの一日の予定を提示した個人スケジュールボードにC職員さんの出勤カードを入れ、その後に「電車の本と一緒に一冊見る」というカードを入れます。支援初期においては、できるだけ出勤後の早い時間帯に入れることが望ましいでしょう。お互いにどのように「快」の時間を過ごしたら良いかが、スケジュールボード上で約束ができたということになります。

D利用者さんは、いつ、誰と、どのようにして、どのくらい、おつきあいができるかがわかり、楽しみまでの見通しがつくようになります。間違いなくお付き合いの時間がやってくる安心感が、生活全体を落ち着きのあるものに変えていくでしょう。

C職員においても、同じような気持ちが生じます。自分のことを叩いたり、つねったりする方に積極的に近づこうとする気持ちはどうしても萎えてしまいますから、おつきあいの時間が構造化されることで前向きな支援の心構えが生まれるでしょう。

「快」の時間の共有は、成功感、成就感を育てます。そして、次の「快」行動へのチャレンジを後押しするでしょう。

「一緒に電車の本を買いに行きたい」「一緒に電車に乗りたい」なんていう希望につながるかもしれません。気がつけば、課題行動を解決したいと思って始めた支援が、暮らしが豊かになる方向に動き始めているのです。

最後に、標題にある「しがみつく」という行動の心の状況をおさらいしておきましょう。それは「好きを上手に伝えることができずに、嫌われるとわかってもネガティブな行動で執拗に相手に迫ること」です。